



まずはやってみよう！
火ノ玉ジャパン
井上伸監督よりメッセージ



ボッチャの魅力とは
ボッチャは障がいの有無に関わらず、誰でもプレーできるところが魅力です。「誰もが垣根なく、一緒に当たり前」がボッチャ協会の理念ですので、気軽に始めてみてください。ルールも簡単なので「見て楽しい、やって楽しい」スポーツです。

ボッチャ体験を通して
障がいのある方と触れ合ったことで、障がい者について知ってもらえるきっかけになることを期待します。どうしても一緒に楽しむことができるかを想像して「どんな準備をすれば良い



▲井上監督が講師を務めた小学校体験会の様子

か「どういうことをすれば良いか」を想像し、新たな気づきを発見してほしいです。
障がいのある方も、どのような形であれ、みんなと一緒にプレーすることで、社会との関わりが生まれると思います。
ボッチャを通してたくさんの人たちがつながってくれたらうれしいです。



ボッチャを知っていますか？

どんな競技？

脳や四肢に障がいがある方のためにヨーロッパで考案された競技です。

年齢や性別、障がいの有無に関わらず、多くの人が一緒に競い合うことができ、すべての垣根を超えた対戦や交流ができることが魅力の一つです。

パリ2024
パラリンピック

ボッチャは昭和63年からパラリンピックの正式競技として行われています。8月にフランス・パリで開催されるパラリンピックでは、日本代表選手（火ノ玉ジャパン）の活躍が期待されています。

近年、注目を集めているボッチャ。本市でも市民体験会を開催するなど大いに盛り上がっています。本市が行うボッチャの取り組みや火ノ玉ジャパンのことをもっと知って、ボッチャをさらに盛り上げていきましょう。

誰でも体験できるよ

市中央体育館（北中川原）にミニボッチャコートが設置されており、誰でも体験することができます。このコートは（一社）日本ボッチャ協会とゴールドパートナー契約を締結しているJR東日本から本市に寄贈していただいたものです。

そのほか、市内の各体育施設でもボールセットが置いてありますので、気軽に体験することができます。利用方法など詳しくは、市ホームページをご覧ください。



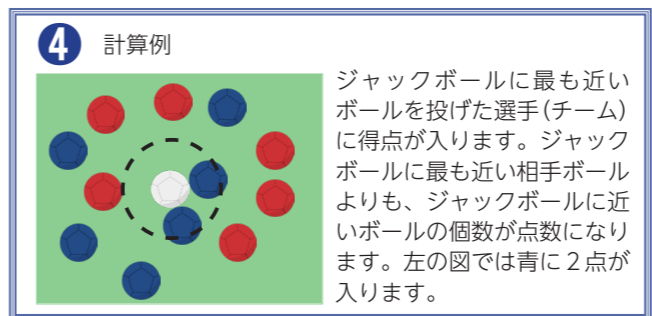
▲中央体育館のミニボッチャコート



試合の流れを覚えよう！

ボッチャは、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青6球ずつのボールをいかに近づけるかを競います。

- 1 先行（赤球）がジャックボール（白球）を投げて試合スタートです。ジャックボール投球後、続けて赤球を投球します。
- 2 後行（青球）が投球します。
- 3 ジャックボールからより近い位置にボールを投げた選手（チーム）がその次の投球を行います。
- 4 赤、青ともに6球ずつを投げた時点で得点を計算します。
- 5 ①〜④を1エンドとし、個人戦とペア戦は4エンド、チーム戦は6エンド行い、合計点を競います（2エンド目以降は、偶数エンドが青球、奇数エンドが赤球が先行です）。



※個人戦・ペア戦・チーム戦や、障がいの程度により分かれる各クラスでルールに異なる点があります。詳しくは（一社）日本ボッチャ協会のホームページをご覧ください。



白河市&ボッチャ

互いに連携

本市と（一社）日本ボッチャ協会は、令和3年6月に「相互協力に関する協定」を締結しました。この協定は、市民の皆さんに障がい者スポーツに親しむ機会を提供し、健康増進や子どもたちの健全育成、共生社会のさらなる進展、そしてスポーツを通じた活気ある地域の構築を目的としています。締結以降、互いに連携し、ボッチャを通じて障がい者スポーツの普及事業や、イベントの開催などに取り組んでいます。

身近な競技に

令和4年度より、市内の小・中学校での体験会、市民体験会、指導者向け講習会、競技大会の開催や、小・中学校へのボッチャボールセットの配布など、さまざま取り組みを行っています。
6月に開催した小学校体験会としかかわスポーツ祭ボッチャ競技では、火ノ玉ジャパンのメンバーが、実際にプレーを披露したり、たくさんの児童や市民と触れ合ったりし、ボッチャの魅力を伝えました。



▲6月に行った小学校体験会の様子



▲杉村 英孝選手



▲廣瀬 隆喜選手



▲遠藤 裕美選手
(福島県ボッチャ協会所属)



▲川崎ボッチャレの選手

火ノ玉ジャパンを応援しよう！

火ノ玉ジャパンのメンバーが、6月下旬に本市で合宿を行いました。東京カップで優勝経験のある「川崎ボッチャレ」と対戦し、パリパラリンピックに向け、本番さながらの緊張感で試合に臨みました。

しらかわスポーツ祭ボッチャ競技

6月23日、市中央体育館で開催し、35チームの計113名が参加しました。5歳から90歳までが参加し、老若男女問わず一球一球狙いを定め、真剣に投球する姿が見られました。



優勝チームインタビュー

家族で参加した「パープルABCY」の柴野ファミリー。SNSで海外のボッチャ選手ともつながっているほどのボッチャファン。海外選手とも交流の輪を広げることができるのがボッチャの魅力でしょうか。



優勝した感想

初めて参加したので、どんな様子か分からなかったのですが、優勝できて驚いています。

してみたら初めての一球でライジングが決まって、そこからはまりました。笑

面白いところ

とにかく誰でもプレーできるところだと思います。いろんな方とプレーしていると、車いすの方とも、みんなと同じように一緒に戦うことができるのが楽しいです。

今後の目標

今まで、障がいがある方との接点がなかったのですが、ボッチャを始めてから障がいのある方と仲良くなることができました。今後もボッチャを通じて、誰とも分け隔てなく交流し、楽しみながらプレーをしていきたいです。

第2回市ボッチャ大会

- 期日 10月6日(日)
- 開始時間 午前9時
- 会場

国体記念体育館(北中川原)
参加方法など詳しくは、市ホームページをご覧ください。



火ノ玉ジャパンの3選手にパリ2024パラリンピックに向けた意気込みを聞きました。当選手たちは、6月に開催した小学校体験会としらかわスポーツ祭で、市民の方と触れ合い、ボッチャの楽しさや奥深さを教えてくれました。



白 河市での交流イベントでもたくさん応援してもらい、気持ち

が上がっています。落ち着いてプレーし、チームメンバーと力を合わせて良いパフォーマンスを見せたいです。福島の方をはじめ、多くの方に練習の成果を伝えられるよう頑張ります。



出場権を得るまで苦しい時期もありましたが、そ

れを乗り越えて出場権を得ることができ、このチームで戦うことに自信を持っています。積み重ねてきたことをパリの舞台上で発揮したいです。また、個人戦では大会連覇に固執しすぎず、東京大会の自分を超えることを目標に臨みます。



今、ボッチャは小学校や大学、企業などでたくさんの方がプレーしてくれています。このブームを途切れさせないようボッチャの楽しさを伝えていきたいです。パラリンピックは今大会で5大会目の出場になります。チーム戦に加え、個人戦の方も結果にこだわって戦って

みんなでボッチャ 一万人プロジェクト

(一社) 日本ボッチャ協会が行うファン拡大プロジェクトです。「ボッチャを全人類に届けよう」を合い言葉に、多くの方にボッチャを体験し、魅力を知ってもらい、そして応援してもらうことを目指しています。詳しくは、協会ホームページをご覧ください。

